

○日本障害者協議会(JD)は本日、戸山サンライズで正会員団体の緊急全体会を開き、「東北関東大震災」に関する最新動向(各団体からの報告交流)と今後の支援体制について報告されました。

このなかで、次のことが決定されました。

日本障害フォーラム(JDF)内に、「JDF東北関東大震災被災障害者総合支援本部」が設置され、JDは全面的に協力する。

東北の被災地(宮城、福島、岩手)に現地支援センターを設置する。JDには「JD「東北関東大震災」関連情報センターを設置し、加盟団体の情報交換・相互連絡支援体制を整備する。(詳しくは、JD事務局より正式の報告が来た段階で、みなさんにも報告します)

JPAも、被災地の支援までは独自の体制をもっていないこともあり、JD加盟団体として今後積極的にかかわり、JDF被災者支援(救援)活動のなかで、被災地の難病連や疾病団体などへの情報提供や支援も、現地のJDF支援センターができることと思います。当面、宮城、福島、岩手の難病連、疾病別患者会のみなさんも、このセンターに結集することをよびかけます。

【患者団体からの連絡・情報】

○フェニールケトン尿症(PKU)親の会連絡協議会-----
(塚田さんより)

3月29日朝、最後まで残っていた宮城県の1家族と連絡がとれ、ご無事が確認できました。

これで、まずは被災地在住全会員の無事が確認できました。

○日本肝臓病患者団体協議会(日肝協)-----
(常任幹事の西村さんより)

会員の方から以下のような通信(メールと写真)が届きました。

「ご心配おかけしました 現状は家は半壊 車二台 船二艘漁業資材一式流されましたが全員無事で元気でやっております。ガソリンが不足でなかなか注射にいけなく困っています。」

今日、この方にガソリン、食糧を持って大船渡市に行って来ました。一階は津波でメチャメチャでした。近くの小屋のようなところを借りて6畳間に5人で寝ているそうです。電気、水道、電話、携帯もダメでLPガスが使えるとのこと。ガソリンは並んで千円分入れるのがやっと、食糧も売っているところがなく近所で分け合って食べている状

態です。避難所には食糧など来ていますが、自宅にいる人には何も配給がないそうです。食料品、家庭用品など全ての物が無い状態で、まだ被災地そのものでした。まだ、避難所にいる会員なども分かりませんが連絡がつかないのでなかなか支援にはつながりません。

会員の現状が分かったら支援を続けたいと思っております。

=====

いわて肝友ネット 阿部洋一

=====

○全国パーキンソン病友の会-----

(「事務局便り」臨時7号 2011年3月30日付より)

■大震災情報(被災地から)

茨城(24日):茨城県支部に南相馬市在住の会員が1名いるが、連絡が取れないため心配である。

岩手(22日):大船渡地区に4名の会員がいるが、連絡が取れず、安否が不明である。津波のない花巻でも、ガソリンと食物が不足している。牛乳も制限して売っているのが今日の状態である。

岩手(30日):大船渡市との連絡がつかない。同市と宮古市の患者さんから無事の連絡が入った。大船渡市の4名の患者さんの安否が不明である。4月1日に佐々木事務局長が大船渡の避難所を訪れ、患者の安否を確認する予定。

宮城(22日):石巻の会員から「地震当日はショートステイにいて助かった」と連絡があった。八戸(青森県)地区の会員から、津波に襲われなかった、と連絡あり。次第に電話が復旧してきたが、まだ連絡は容易につかない。東北大学医学部附属病院神経内科のホームページに、現在不足しているものは一番に医者、二番めが物品と出ている。

宮城(30日):愛知県支部から毛布50枚送られ、まだ寒いので大変助かった。石巻方面へ配布する。塩釜、女川、気仙沼で会員の安否が分からない方が7~8人いる。被災地から、自宅の天井まで水が来たが自分は助かった、アパートの4階に住んでいて、階下まで津波が来たが4階にはこなかった、がけが崩れて家がつぶされた、などの会員から連絡が来ている。10時間も並んで、やっとガソリンが手に入った。

福島(30日):原発問題で困っている。4月16日にて定期総会と講演会を行う予定。会員が顔を合わせて無事を喜び合える集まりにしたい。講演は東北大学の武田先生に「パーキンソン病の非常時の心得」について話していただく。

千葉(30日):浦安市が液状化した。会員が1名いるが連絡できず。

外房は津波が来たが、会員に被害者はいないらしい。

地震の翌日に支部の旅行で、九十九里浜のかんぽの宿に行く計画だったが、津波で

1・2 階が水をかぶり、急遽旅行は中止となった。地震が 1 日遅れたら大変なことであった。

■Lドパ剤「マドパー」製造一時中断

中外製薬の「マドパー」を製造している群馬県の工場が、このたびの地震で、製造ラインが被災し、現在製造を停止している、と同社の方が現状と患者さんの協力要請に 3月30日に友の会本部を訪れました。

同社によると、震度5以上の地震に見舞われた錠剤製造工場は、現在、生産を停止している。患者さんへの薬剤提供を短期(2週間程度)にしていけば、流通在庫で、5月までは供給可能である。工場は復旧工事を行っており、4月中旬には製造を再開したいと考えている。患者さんには薬受取の回数が増えることになり、申し訳ないと思うが、是非ご協力をお願いしたいと言われました。

患者会として、マドパーを服用している方が困らないように、従来より短い期間の薬処方になり、通院回数が増えますが、在庫が不足して、行き当たらない患者が出ないようにするため、みんなで協力したいと思います。マドパー服用者のご協力をお願いします。

☆各疾病団体の取り組みや情報を、JPA事務局にお送りください。

<後記>「1000 人のチェロコンサート」という1枚のCDがあるのをご存じでしょうか？阪神淡路大震災から3年半を過ぎた、1998 年 11 月 29 日、神戸ワールド記念ホールで行われた阪神・淡路大震災復興支援チャリティコンサートの記録。「4歳の女の子から 88 歳の紳士まで、プロもアマも一緒に 1013 名の音楽家たちが心をあわせ、震災でなくなられた方々の魂のために、美しい音楽を奏でました。それは音楽以上のものだったように思います」(CDの解説に書かれた高円宮憲仁親王の言葉)。カザルスの「鳥の歌」に始まり、最後に再び「鳥の歌」で終わるこのチャリティCDは、震災からの復興と平和を願う壮大な瞬間を収めた貴重な記録です。

絵本作家のいせひでこさんが、このコンサートをテーマに、絵本『1000 の風 1000 のチェロ』(偕成社、2000 年 11 月初版)を作りました。私はいせさんの大ファンで、我が家のコレクションのなかに、CDとともにこの絵本もありました。

現在世田谷文学館で開かれている「いせひでこ原画展」を、何とか時間をつくって先週末、見に行った際、冒頭にこの原画が展示されていてとても感動し、胸に迫ってくるものがありました。

原画展は明日で終わりですが、最終日の明日、女優の竹下景子さんによるこの絵本の朗読会が行われます。私は残念ながら行けませんが、お近くの方は必見です。

<http://www.setabun.or.jp/>

今度の震災は、地震、津波、原発による複合的、現代的な様相（JD緊急全体会での藤井さんの報告）をもっており、復興には長い時間がかかることと思います。そんななかでも元気を出して生きていこう、というメッセージを、このCDと絵本から得られた思いがしたので紹介しました。長々とすみません。今日のJD緊急全体会の閉会あいさつで副代表の東川さんは、「戦争で焼け野原になった日本から立ち直って世界に冠たる日本国憲法をつくり新しい日本を私たちは作り上げた。心に太陽をもて、唇にはうたをもて、そうすれば何がこようと平気…、前をみてがんばりましょう」と結びました。その心意気を失わずに、私もがんばります。（水谷）